

研究課題名	府県型イアコーンサイレージ生産利用体系の開発と実証 畜産研究所HPへ																														
予算区分	県単/受託 (1,250千円)	担当	飼養技術研究室 飼養管理研究グループ																												
研究期間	新規 (平成29~31年度)	協力関係																													
研究目的	<p>濃厚飼料は90%が輸入に頼っており安定した供給のリスクがあるとともに、安全性への不安がある。そのため、濃厚飼料の国内自給が求められ、飼料米や完熟飼料用トウモロコシ子実の取り組みがあるが生産費が高い現状である。またイアコーン（コーン子実）サイレージは生産費が抑えられるが大規模経営でしか成り立たない。</p> <p>一方、野菜農家では、連作障害対策として緑肥作物が作付されるが、その間は収入が皆無となる。そこで、緑肥を栽培している圃場でイアコーンを収穫し、茎葉部分を圃場還元すれば連作障害回避と収入確保が両立できる。</p> <p>そのために府県での小面積でのイアコーン栽培、収穫、利用技術を確立する。</p>																														
全体計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イアコーン用品種の選定 2 イアコーンサイレージ用の栽培技術の検討 3 栽培、調製、利用の実証（場内と現地） 																														
研究対象	飼料作	専門部門	酪農																												
<p>○ 本年度試験のねらい</p> <p>早生品種で子実割合の高い品種を選定する。併せて、超極早生の可能性を検討する。6品種を供試し雄穂抽出期から50日での子実重、子実割合、水分を基準に品種選定する。</p> <p>〈時期〉 平成29年5月～平成29年11月</p> <p>〈試験の内容〉</p> <p>5品種を供試し雄穂抽出期から50日での子実重、子実割合、水分を基準に品種選定する。</p> <p>供試品種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>品種名・系統名</th> <th>RM</th> <th>会社など</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P9027</td> <td>93</td> <td>パイオニア</td> <td>超極早生</td> </tr> <tr> <td>LG3490</td> <td>108</td> <td>雪印</td> <td></td> </tr> <tr> <td>KD580</td> <td>108</td> <td>カネコ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>34N84</td> <td>108</td> <td>パイオニア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>T×1241</td> <td>110</td> <td>タキイ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ゆめちから</td> <td>114</td> <td>九州沖縄農研</td> <td>対照品種</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 協力関係</p> <p>農研機構農業技術革新工学研究センター 広島県 (株)タカキタ他</p>				品種名・系統名	RM	会社など	備考	P9027	93	パイオニア	超極早生	LG3490	108	雪印		KD580	108	カネコ		34N84	108	パイオニア		T×1241	110	タキイ		ゆめちから	114	九州沖縄農研	対照品種
品種名・系統名	RM	会社など	備考																												
P9027	93	パイオニア	超極早生																												
LG3490	108	雪印																													
KD580	108	カネコ																													
34N84	108	パイオニア																													
T×1241	110	タキイ																													
ゆめちから	114	九州沖縄農研	対照品種																												

○ 本年度試験設計（詳細）

イアコーン用品種の選定

〈時期〉 平成29年5月～平成29年11月

〈試験の内容〉

早生品種で子実割合の高い品種の選定と超極早生品種の可能性を探る。6品種を供試し雄穂抽出期から50日での子実重、子実割合、水分を基準に品種選定する。

(1) 供試品種

供試品種

品種名・系統名	RM	会社など	備考
P9027	93	パイオニア	超極早生
LG3490	108	雪印	
KD580	108	カネコ	
34N84	108	パイオニア	
T×1241	110	タキイ	
ゆめちから	114	九州沖縄農研	対照品種

(2) 試験・調査材料

ア 試験圃場 1号圃場 (50a)

イ 試験区 1区3m×15m 3区乱塊配置

(3) 試験・調査方法

ア 播種密度 700本/a (極早生は800本/a)

イ 耕種概要

施肥：N、P2O5、K2O、各1.12kg/a

除草：播種直後 ゲザノンフロアブル

茎葉処理 ワンホープまたはアルファード

ウ 調査項目

出芽期：出芽良否、初期生育

雄穂抽出期：子実収量、茎葉収量、病虫害、倒伏、子実・茎葉の飼料成分

○ 次年度以降の計画

(1) 極早生品種のイアコーン適正を明らかにするとともに、播種密度、追肥が子実収量に及ぼす影響を明らかにする。

(2) 実規模でのイアコーン用トウモロコシを栽培し、府県用イアコーンサイレージ収穫調製機の能力試験の実施(当所)

年度スケジュール

